

第3期大分都市圏ビジョン（素案）

第1章 はじめに

第2章 圏域を取り巻く**環境**

第3章 圏域の将来像

第4章 将来像の実現に向けた取組

関係資料 規約・策定体制

第1章 はじめに

1. 第3期大分都市圏ビジョン策定の趣旨

わが国では急速な少子高齢化の進展や人口減少社会の到来、大規模地震や豪雨等の自然災害の激甚化、デジタル技術の発展等による経済・産業構造の変化、市民ニーズの高度化・多様化、また、ライフスタイルの多様化等、多方面にわたる問題や課題の対応に迫られています。

このようななか、国においては相当の規模と中核性を備える圏域の中心都市が近隣自治体と連携し、「圏域全体の経済成長のけん引」、「高次の都市機能の集積・強化」及び「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」に向けた取組を実施することにより、人口減少社会においても一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するための拠点の形成を目指す「連携中枢都市圏構想」を推進しています。

この「連携中枢都市圏構想」の趣旨に沿い、平成28年3月に大分市、別府市、臼杵市、津久見市、竹田市、豊後大野市、由布市、日出町の7市1町は、「大分都市圏」の圏域を形成し、産業振興、広域ネットワーク構築、生活環境整備等に取り組んできました。

また、令和8年3月には佐伯市が加わり、県全体の人口の約7割を占める8市1町の新たな圏域を形成しました。

本ビジョンは、大分都市圏が将来にわたり一定の圏域人口を有し、生活の質の向上や経済の維持発展を図るため、圏域内の各市町が連携する取組の方向性と内容を定めるものです。

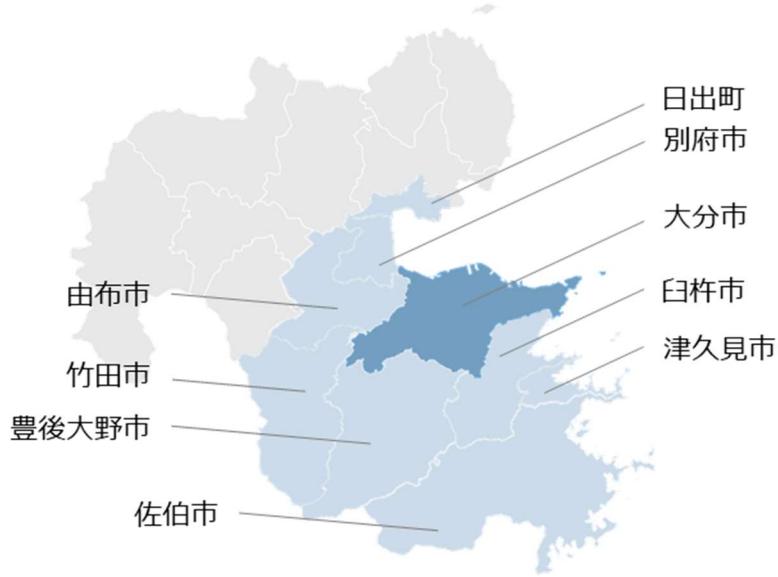
2. 連携中枢都市圏の名称及び構成市町

(1) 連携中枢都市圏の名称 「大分都市広域圏」

連携協約締結日 2016(平成 28)年 3月 29 日 (大分市、別府市、臼杵市、津久見市、竹田市、豊後大野市、由布市、日出町)
2026(令和 8)年 3月〇日 (佐伯市)

(2) 構成市町

大分市、別府市、**佐伯市**、臼杵市、津久見市、竹田市、豊後大野市、由布市、日出町



構成市町の基本情報

自治体	読み	国勢調査人口 (H27)	国勢調査人口 (R2)	構成率	面積(km ²)	施行日
大分市	おおいたし	478,146	475,614	57.7%	502.39	1911.4.1
別府市	べっぷし	122,138	115,321	14.0%	125.34	1924.4.1
佐伯市	さいきし	72,211	66,851	8.1%	903.14	2005.3.3
臼杵市	うすきし	38,748	36,158	4.4%	291.20	1950.4.1
津久見市	つくみし	17,969	16,100	2.0%	79.48	1951.4.1
竹田市	たけたし	22,332	20,332	2.5%	477.53	2005.4.1
豊後大野市	ぶんごおおのし	36,584	33,695	4.1%	603.14	2005.3.31
由布市	ゆふし	34,262	32,772	4.0%	319.32	2005.10.1
日出町	ひじまち	28,058	27,723	3.4%	73.26	1954.3.31
計		850,448	824,566	100.0%	3374.80	-

出所：人口 総務省「国勢調査」

面積 土地行政局「令和 7 年全国都道府県市区町村別面積調（4 月 1 日時点）」

3. 大分都市圏及び連携市町の概要

(1) 大分都市圏の概要

大分都市圏は大分市、別府市、臼杵市、津久見市、竹田市、豊後大野市、由布市、日出町の7市1町で2016(平成28)年に圏域を形成しました。2026(令和8)年3月には佐伯市が加わり、圏域の人口は約82万人、面積は約3,375km²です。

東九州自動車道が2015(平成27)年3月に県内全線開通した後、現在は中九州横断道路の整備も行われており、自動車等での移動の利便性がますます向上し、経済や文化など、あらゆる面で各市町間の連携強化が期待されています。

また、「JRおおいたシティ」は、大分駅付近連続立体交差事業・大分都心南北軸整備事業・大分駅南土地区画整理事業・大分市中心市街地活性化事業の4事業を背景として整備され、東九州の玄関口としての役割を担っています。

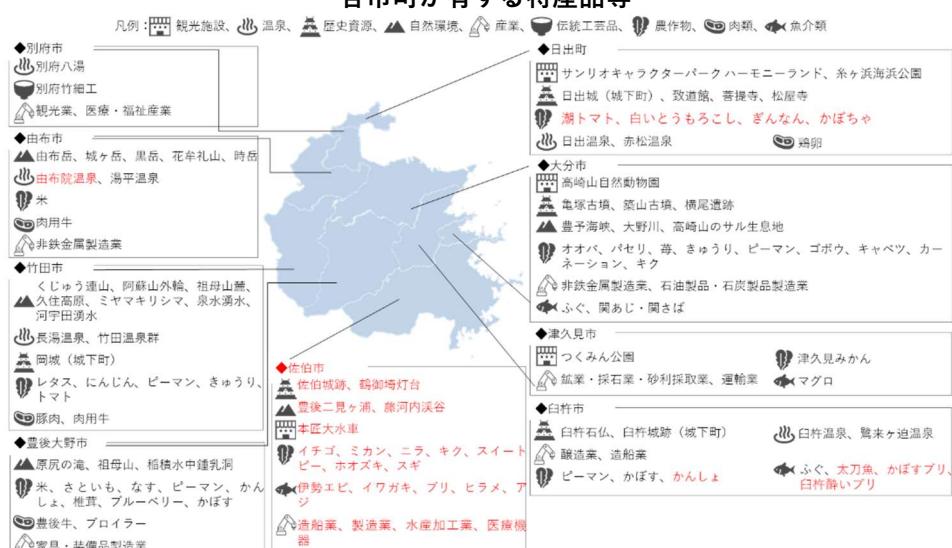
さらに、圏域には港湾が多く、九州における海路と陸路の結節点となっており、愛媛や関西を結ぶ旅客フェリーをはじめ、※1RORO船基地も整備されていることから、物流面においても九州の中で大きな役割を果たしています。

産業面においては、全国と比較すると非鉄金属製造業、石油製品・石炭製品製造業、鉄鋼業の規模が大きいほか、農業においても野菜栽培が盛んであることに加え、花きの栽培が全国と比較して盛んであるなど、高い競争力を有しています。

観光面においては、日本一の湧出量を誇る温泉を中心に、多種多様で豊かな自然環境など観光資源が豊富な地域であり、観光客数の増加による観光旅行消費の拡大に向けた取組など、今後さらなる成長の余地があると考えられます。

また、圏域においては多文化交流、多言語教育を推進する大学が数多く存在し、留学生が多いことから、グローバルな人材を育成・輩出できる環境が整備されています。圏域では大学と企業が幅広い連携の協定やスキームを構築しており、新製品や新技術の開発を中心に産学連携が進んでいます。

○ 各市町が有する特産品等



出所：各市町 HP 等

(2) 連携市町の概要

①大分市

九州の東端、瀬戸内海の西端に位置し、温暖で豊かな自然と都市が共存する人口約 47 万人の中核市です。自然に関わる施設・特産品・郷土料理等多くの魅力的な観光資源を有しています。

多くの野生生物が生存しており、天然記念物を含む野生生物の生息環境に恵まれています。県下最大級の前方後円墳を有する等、歴史的文化遺産もあります。

また、産業競争力も高く、製造品出荷額においては、九州の市町村で 1 位となっています。JR 大分駅は日豊本線、豊肥本線、久大本線の 3 路線が交わる鉄道のハブとしての機能が強化され、東九州の玄関口の役割を担っています。

高崎山自然動物園のサル



②別府市

緑豊かな山々や瀬戸内の青い海に囲まれ、日本一の温泉湧出量と源泉数を誇る「湯のまち べっぷ」は、全国有数の温泉地として、毎年、国内外から多くの観光客が訪れ賑わいを見せてています。県内では大分市に次いで 2 番目となる約 11 万人の人口を有し、市内の大学等には約 110 か国・地域から 3,500 人を超える留学生が在籍しています。多様性に満ちた国際色豊かな環境で、新たなビジネス・就職人材の創出、グローバル人材の育成が期待されます。

主要産業は観光業及び医療・福祉産業で、医療機関は充実し、福祉関連の施設も多くなっています。特産品の「別府竹細工」は、県内で唯一「伝統的工芸品」の指定を受け、生活用品から美術工芸品まで幅広く愛用されています。

鉄輪の湯けむり



③佐伯市

佐伯市は、大分県の南東部に位置し、豊後水道に面した温暖な気候と豊かな自然に恵まれた、九州一広大な面積（903k m²）を有する地域で、約6万人が暮らしています。江戸時代には佐伯藩の城下町として栄え、市内中心部には武家屋敷や寺社などの歴史的建造物が残っています。近代では、軍事都市として発展しましたが、戦後は旧海軍跡地の臨海部に工場や造船所が進出、工業都市としても発展し、県南の拠点都市として栄えてきました。

祖母傾国定公園、日豊海岸国定公園、祖母・傾・大崩ユネスコエコパークを有し、山、川、海が織りなす多様な景観が特徴です。リアス海岸が広がり、古くから漁業が盛んであり、アジやサバ、ブリなどの豊富な海産物が水揚げされます。農林業も盛んであり、温暖な気候を活かした柑橘類の栽培や循環型林業も行われています。

九州最東端鶴御埼灯台



④臼杵市

大分県の東海岸に位置し、豊富な伝統的歴史観光資源が大きな魅力です。

古園石仏群に代表される臼杵石仏はその規模と数量、彫刻の質の高さにおいて日本を代表する石仏群であり、61体全てが国宝に指定されています。

国史跡臼杵城跡・二王座歴史の道など、古くから栄えた城下町の歴史と文化が残る町並み散策が楽しめます。

ピーマンやかんしょなどの農業や太刀魚など漁業の規模が大きく、また競争力も高くなっています。現在は、約3.6万人の人口を有し、西日本一の生産量を誇る味噌・醤油、地酒を中心とした「醸造の町」として知られ、臼杵ふぐやほんまもん農産物等、豊かな食文化が育まれています。2021年には「ユネスコ創造都市ネットワーク（食文化分野）」に加盟しています。

国宝 白杵石仏（磨崖仏）



⑤津久見市

温暖な瀬戸内海沿岸に位置し、600mから700mの山地が三方から馬蹄形に囲んでいるなど、自然と立地に恵まれているため、海・港・自然に関する観光スポット・観光イベントが多いまちです。

現在の人口は約1.6万人であり、古くからマグロ漁業などで知られており、マグロ等の海の幸を用いた郷土料理が代表的です。日本屈指の歴史と伝統を持つみかん産地であり、津久見みかんが津久見市の代表的な特産品となっています。また、全国でも有数の石灰石資源を有し、全国平均と比較すると、鉱業・採石業・砂利採取業、運輸業の規模が大きく、競争力も高くなっています。

つくみイルカ島



⑥竹田市

大分県の南西部に位置し、阿蘇くじゅう国立公園のくじゅう連山、阿蘇山外輪、祖母・傾・大崩ユネスコエコパークに登録された祖母山麓や四季がおりなす多種多様な植物、清らかな湧水など自然に恵まれています。岡城を中心に城下町として栄えてきた歴史があることから、自然のみならず豊富な伝統的歴史観光資源も大きな魅力の一つです。現在は約2.2万人の人口を有し、産業では農業、林業、畜産業の規模が大きくなっています。

また、古くから栄えてきた炭酸泉を誇る長湯温泉をはじめ国民保養温泉地の指定を受けている竹田温泉群や四季折々に表情を変える久住高原等を活用した観光産業もまちの基幹産業の一つです。

国指定史跡 岡城跡



⑦豊後大野市

大分市南部に隣接し、2019（令和元）年には中九州横断道路も開通した、豊かな自然環境と利便性をあわせ持った人口約3.4万人のまちです。大野川水系の豊かな水と、四季を通じて温暖な気候は県内屈指の畑作地帯を形成し、古くから農業を基幹産業として発展してきました。また、豊かな自然に加えて、恵まれた大地、文化継承などが高く評価され、九州で唯一「日本ジオパーク」と「ユネスコエコパーク」の両方に認定されています。さらに、古くから石風呂の文化があり、先人たちは溶結凝灰岩の岩壁に穴を掘り、蒸し風呂を楽しんでいました。こうした特色を背景に、大自然を生かしたアウトドア・サウナを観光資源として活用するため、「サウナのまち」を宣言しました。

原尻の滝



⑧由布市

豊富な温泉湧出量、源泉数を誇る由布院温泉や由布岳、城ヶ岳、黒岳、花牟礼山、時岳等の山岳のほか、大分川流域の水資源、湧水に恵まれており、自然環境が豊かな人口約3.3万人の観光都市です。歴史的に温泉街として発展した地域のため、特徴的な温泉街の街並みを持っています。農林畜産業が盛んな地域であり、特に畜産業は、大分県における畜産発祥の地として有名です。全国平均と比較すると、非鉄金属製造業の規模が大きく、また競争力も高くなっています。農業では、肉用牛と米の産出に強みをもっています。

由布院盆地から眺める春の由布岳



⑨日出町

大分県の中部に位置する日出町は、豊かな自然と温暖な気候に恵まれた人口約2.8万人ほどで、大分県の経済の中心地である大分市や、観光地である別府市からも近く、住みやすい町として発展してきました。

サンリオキャラクターのテーマパーク「ハーモニーランド」をはじめ、広大な海に面する総合レジャー公園である糸ヶ浜海浜公園など多様なレジャー施設を有するとともに、日出藩ゆかりの城跡や寺社などの文化財が多く残る城下町など、観光資源にも恵まれています。

また、豊富な水資源を背景に、町内には湧水が多く、上水道の大部分が良質な地下水で賄われており、水の美味しさに定評があるまちです。

ハーモニーランド

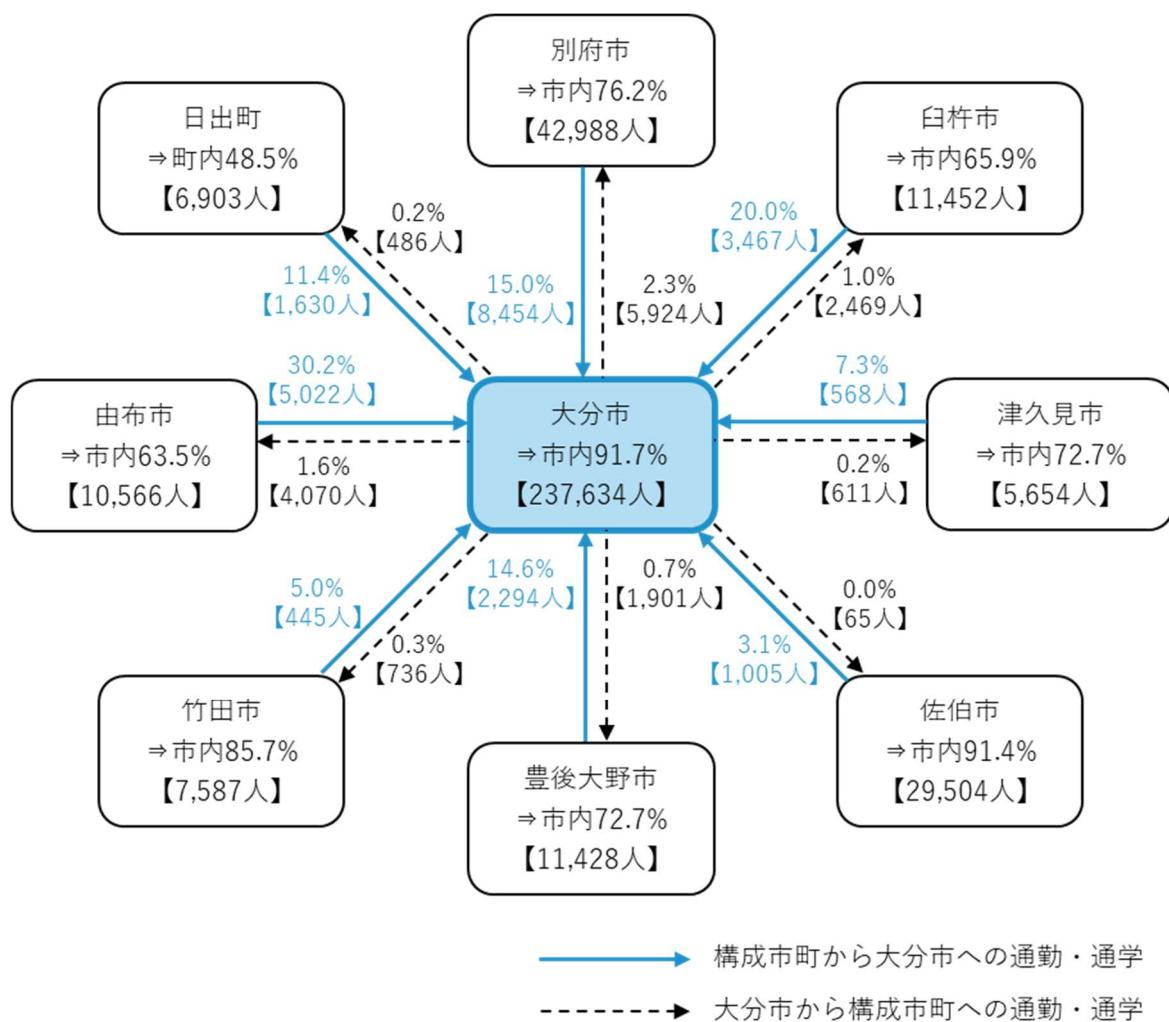


(3) 構成市町から大分市への通勤・通学の状況

大分市に住む通勤通学者（自宅での就業者を除く）は約 **25.9** 万人であり、そのうち約 9 割（91.7%）が大分市内へ通勤・通学しており、残りの 1 割程度は主に近隣市町へ通勤・通学しています。

別府市、臼杵市、豊後大野市、由布市、日出町から大分市への通勤通学者は、各市町の通勤通学者の 10%以上を占めており、**8** 市町から大分市への通勤通学者の合計は約 **2.3** 万人にのぼります。

大分市と構成市町間の通勤・通学の状況



出所：総務省「R2 国勢調査」

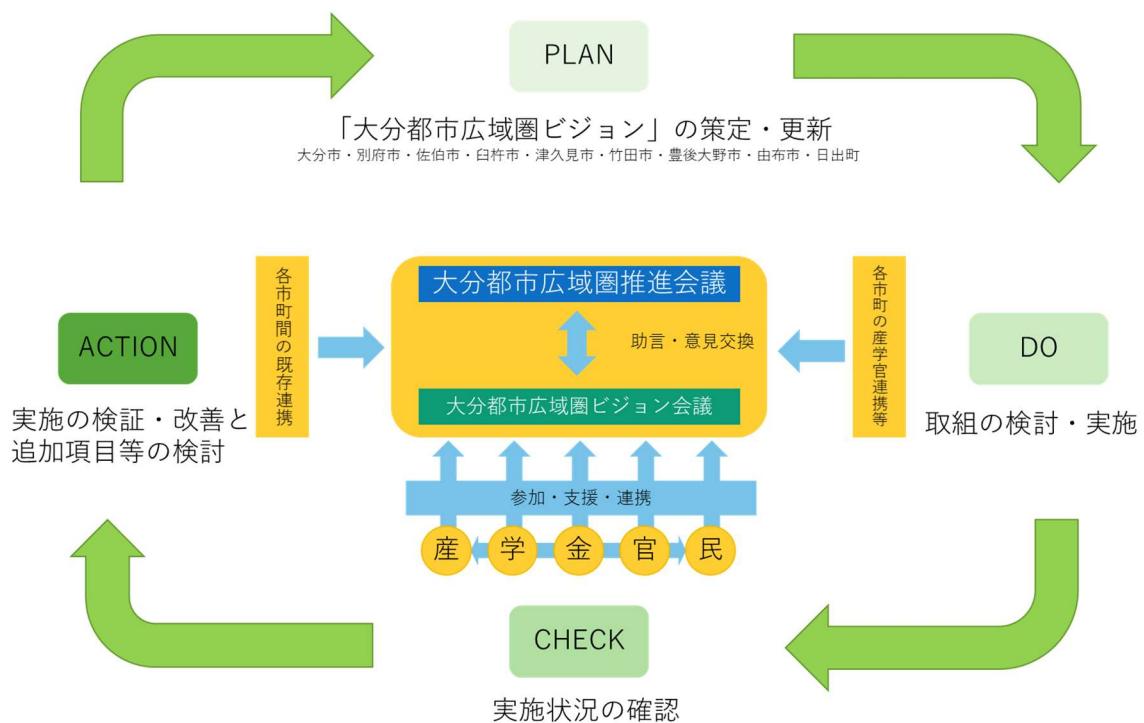
4. 取組の期間

2026（令和8）年4月～2031（令和13）年3月までの5年間

5. 推進及び検証体制

2015（平成27）年10月5日に設置した「大分都市圏推進会議」を中心に、幹事会や専門部会を設置し、広域連携事業を推進しています。

加えて、産学官民の外部有識者から構成する「大分都市圏ビジョン会議」より助言等をいただく中、広域連携の推進や実施状況等、取組の検証を行います。



第2章 圏域を取り巻く環境

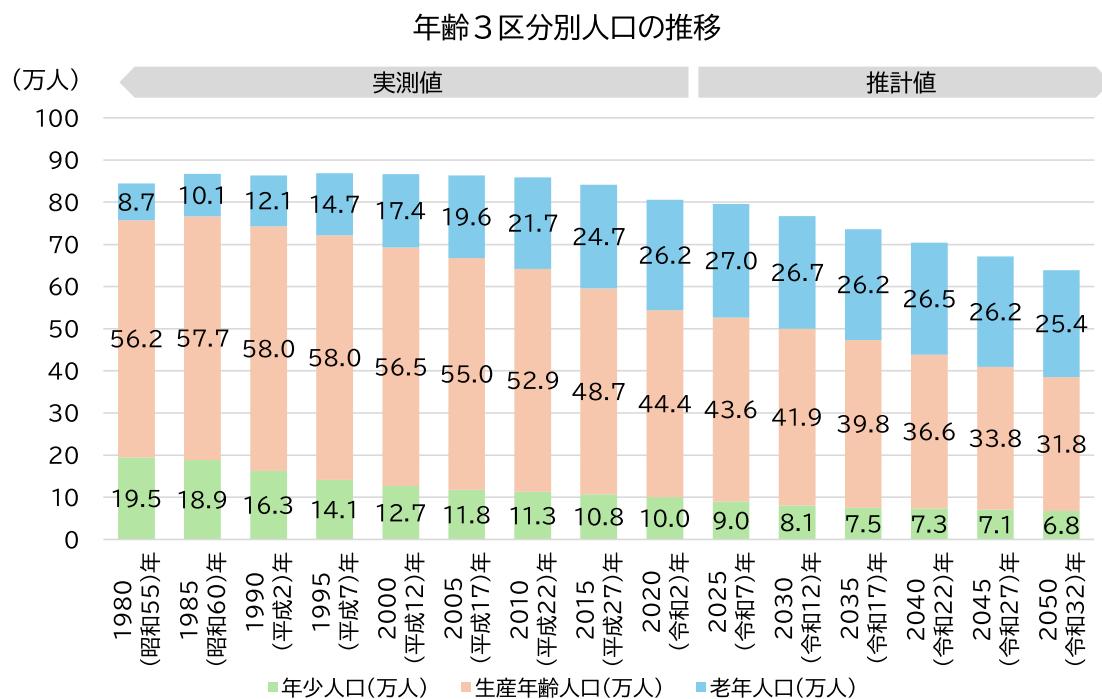
1. 圏域の現状

(1) 人口

① 年齢3区分別人口の推移

大分都市圏の総人口は1980(昭和55)年から1995(平成12)年にかけて増加し続け、1995(平成7)年に総人口約86.9万人とピークを迎えました。その後減少局面に入り、直近の実測値である2020(令和2)年には総人口約82.5万人となっています。

将来人口推計では、2025(令和7)年以降総人口は減少し続け、老人人口の割合も増加する見通しです。また、2050(令和32)年には総人口約63.9万人まで減少する見通しです。



年齢3区分別人口の推移

年	総人口	年少人口	生産年齢人口	老人人口
1980(昭和55)年	844,568	194,982	561,973	87,476
1985(昭和60)年	867,439	188,918	577,150	101,313
1990(平成2)年	865,169	163,113	579,858	120,715
1995(平成7)年	869,395	141,343	580,420	147,358
2000(平成12)年	867,496	127,035	565,496	174,402
2005(平成17)年	865,489	118,108	549,849	195,757
2010(平成22)年	864,614	113,295	528,710	216,990
2015(平成27)年	850,448	107,749	487,328	246,792
2020(令和2)年	824,566	100,042	443,652	262,129
2025(令和7)年	796,519	90,477	435,859	270,183
2030(令和12)年	766,825	81,130	418,685	267,010
2035(令和17)年	735,779	75,431	397,937	262,411
2040(令和22)年	703,645	73,228	365,660	264,757
2045(令和27)年	670,864	70,996	338,152	261,716
2050(令和32)年	638,824	67,607	317,582	253,635

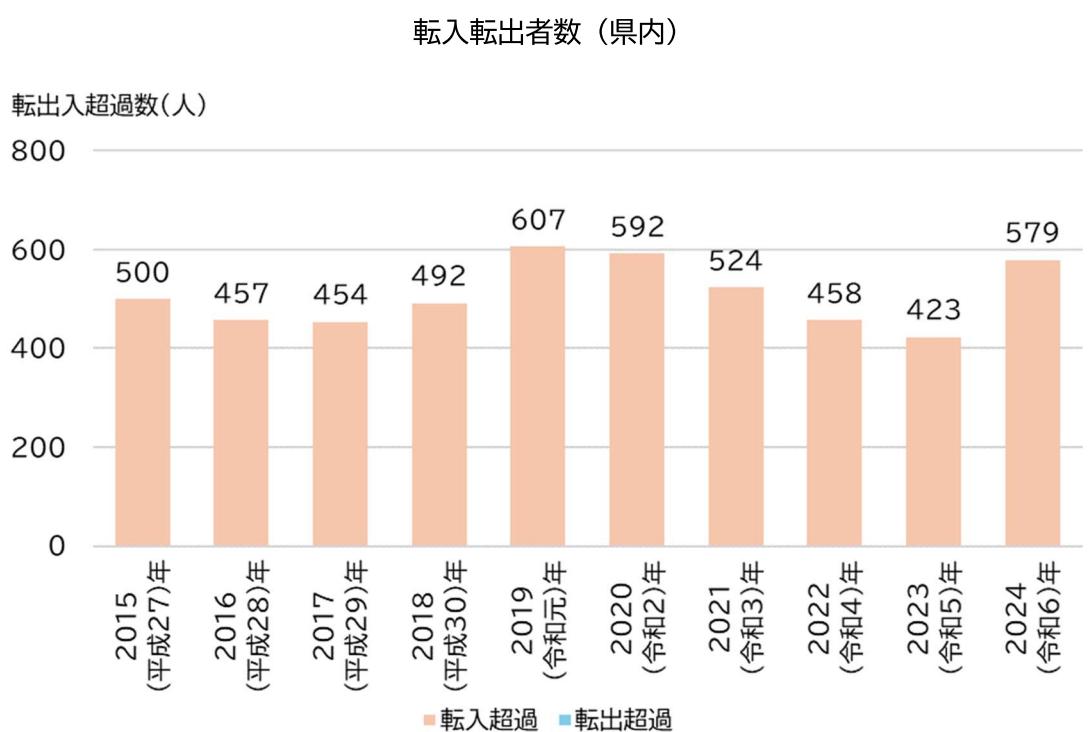
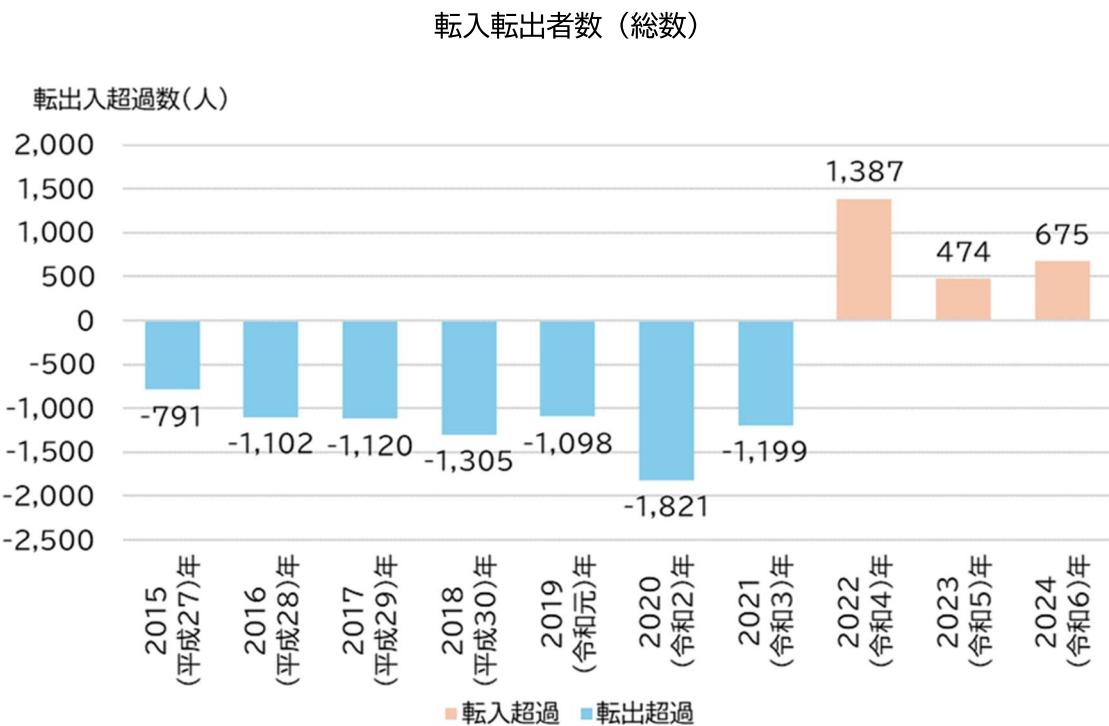
出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

※2020(令和2)年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2025(令和7)年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（令和5年12月公表）に基づく推計値

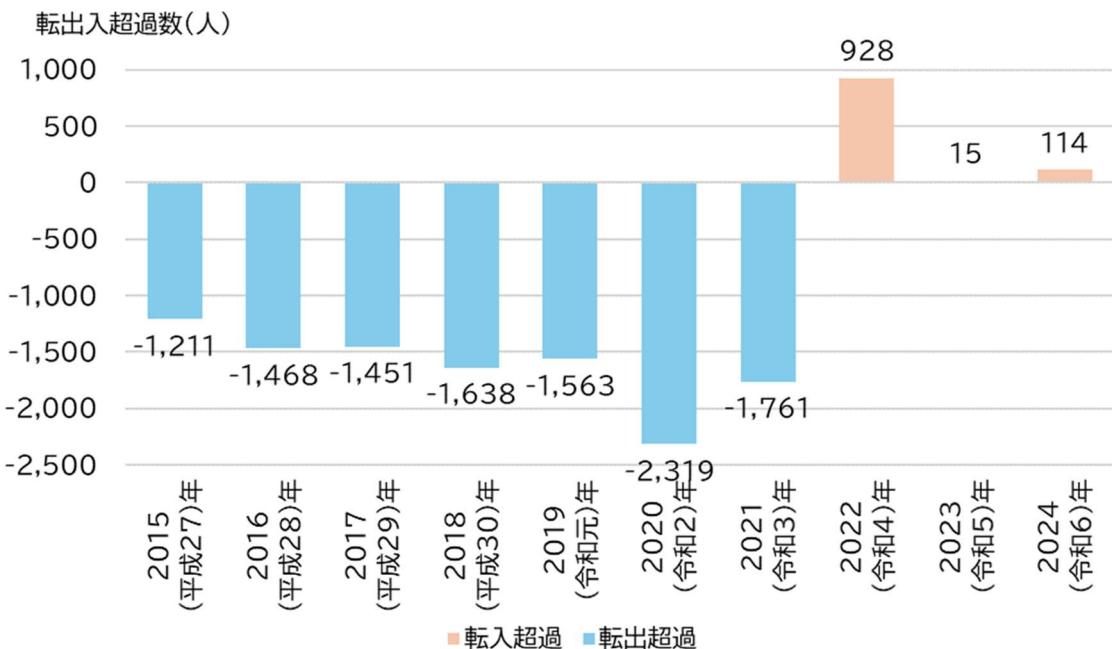
※総数には年齢不詳を含むため、年少人口、生産年齢人口、老人人口の合計と総人口の数値は一致しない。

② 社会動態

大分都市圏全体では、2021(令和3)年まで転出超過が継続していましたが、2022(令和4)年からは転入超過となっています。

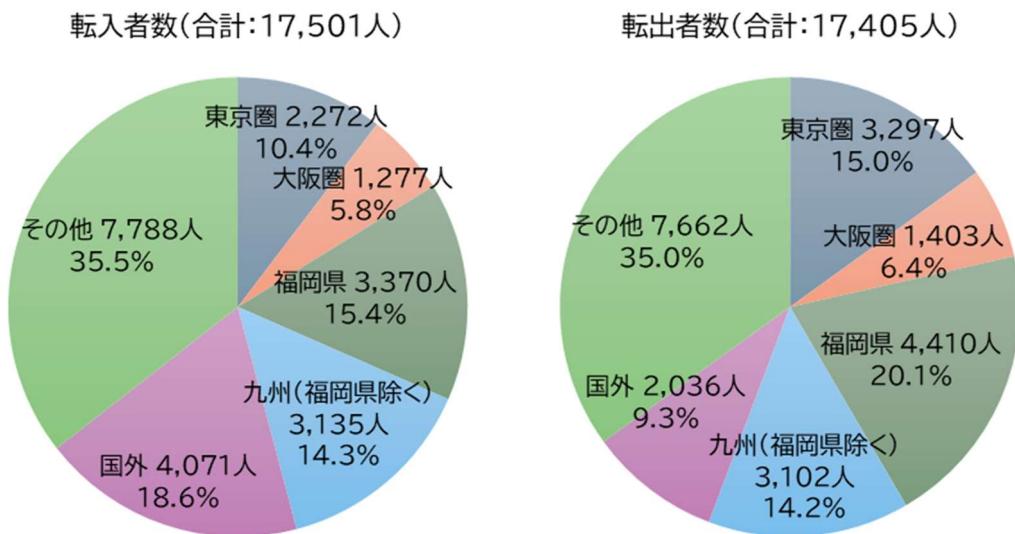


転入転出者数（県外）



地域別転入転出者数は、転入超過は国外（2,035人）が多く、転出超過は東京圏（1,025人）、福岡県（1,040人）が多くなっています。

地域別転入転出者数（R6）

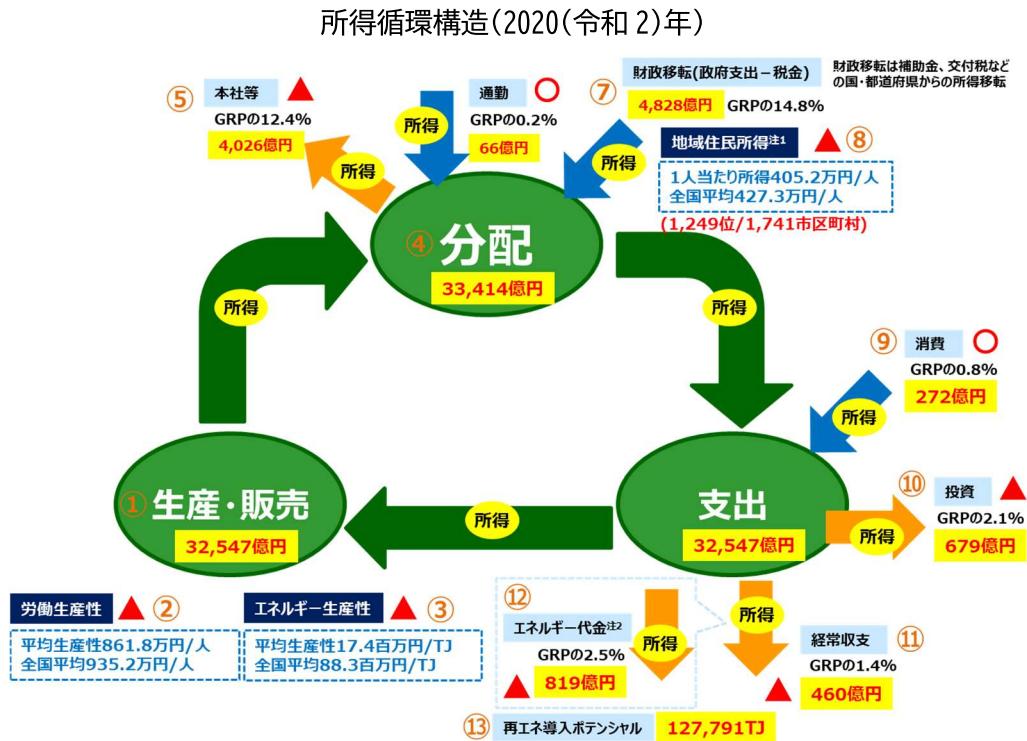


出典：大分県「大分県の人口推計【年報】」

※総数には前居住地・転出先不明者を含むため、県内、県外の合計と総数の数値は一致しない。

(2) 経済

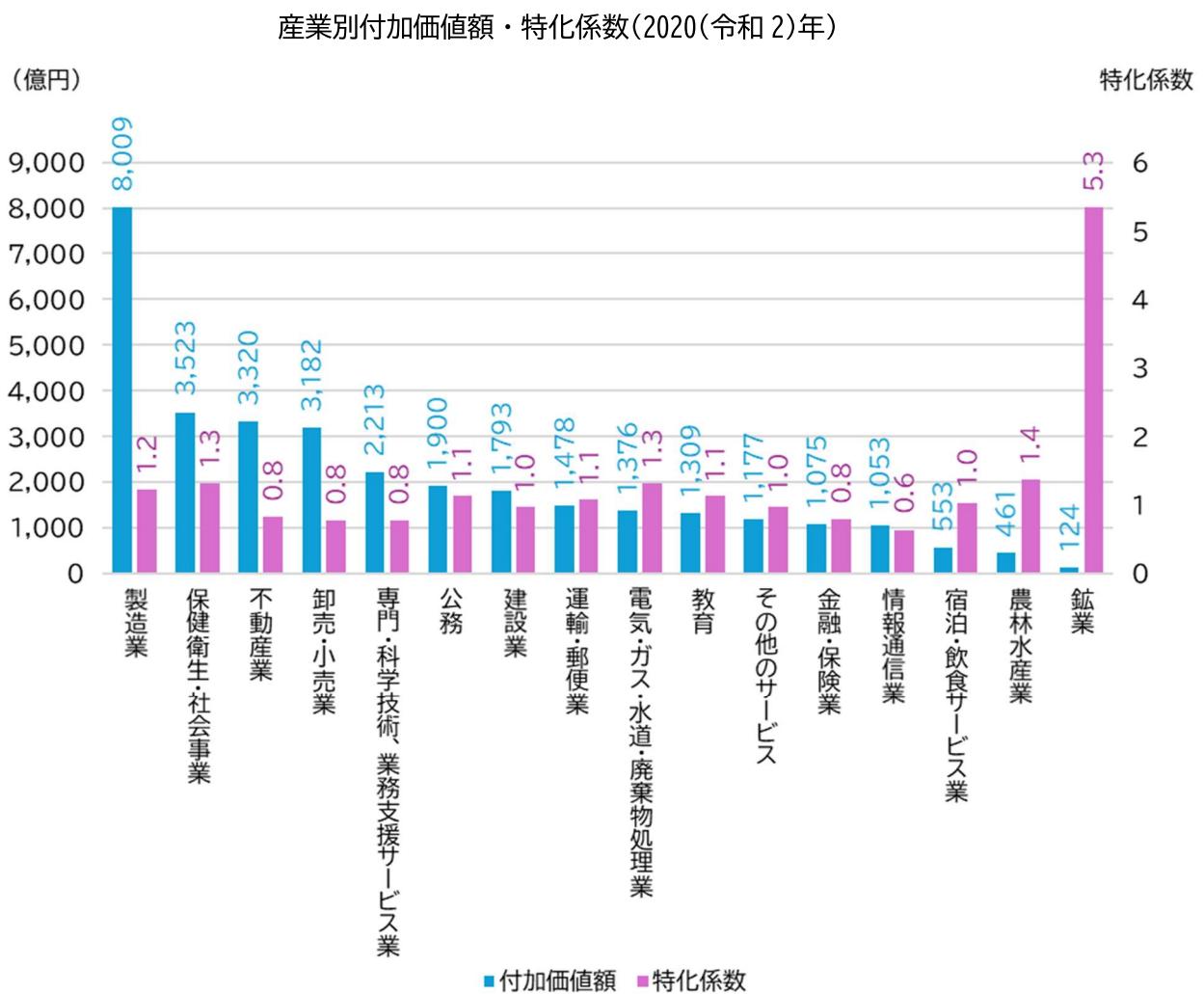
① 総生産・地域経済循環分析、付加価値額（特化係数）



- ① 大分都市広域圏では、32,547 億円の付加価値を稼いでいる。
- ② 労働生産性は 861.8 万円/人と全国平均よりも低い。
- ③ エネルギー生産性は 17.4 百万円/TJ と全国平均よりも低い。
- ④ 大分都市広域圏の分配は 33,414 億円であり、生産・販売 32,547 億円よりも大きい。
- ⑤ 本社等への資金として 4,026 億円が流出しており、GRP の 12.4%を占めている。
- ⑥ 通勤に伴う所得として 66 億円が流入しており、GRP の 0.2%を占めている。
- ⑦ 財政移転は 4,828 億円が流入しており、GRP の 14.8%を占めている。
- ⑧ 大分都市広域圏の 1 人当たり所得は 405.2 万円/人と全国平均よりも低い。
- ⑨ 買物や観光等で消費が 272 億円流入しており、GRP の 0.8%を占めている。
- ⑩ 投資は 679 億円流出しており、GRP の 2.1%を占めている。
- ⑪ 経常収支では 460 億円の流出となっており、GRP の 1.4%を占めている。
- ⑫ エネルギー代金が域外へ 819 億円の流出となっており、GRP の 2.5%を占めている。
- ⑬ 再生可能エネルギーの導入ポテンシャルは 127,791 TJ であり、地域で使用しているエネルギーの約 0.68 倍である。

出典：地域経済循環分析作成ツール 2020(令和2)年版

大分都市広域圏の 2020(令和 2)年の付加価値額は、「製造業(8,009 億円)」、「保健衛生・社会事業(3,523 億円)」、「不動産業(3,320 億円)」の順に多くなっています。

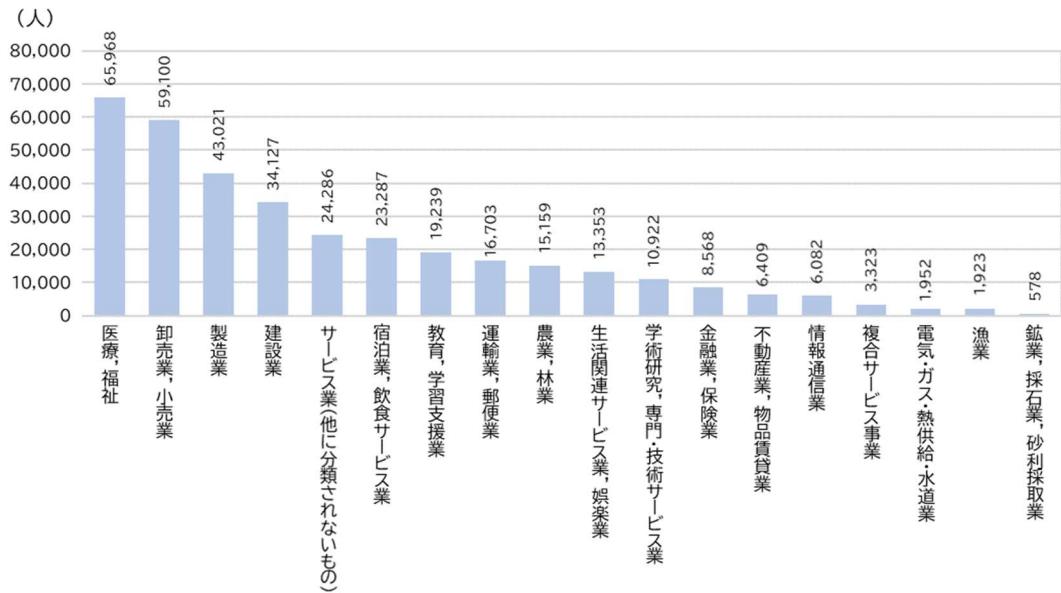


出典：地域経済循環分析作成ツール 2020(令和 2)年版

② 就業者及び事業所数

2020(令和2)年の就業者数は378,985人となっており、内訳としては、「医療・福祉(65,968人)」、「卸売業・小売業(59,100人)」、「製造業(43,021人)」の順に多くなっています。

産業大分類別就業者数(2020(令和2)年)



出典：総務省「令和2年国勢調査」

事業所数は、2009(平成21)年から2016(平成28)年まで概ね横ばいを推移し、2019(令和1)年の42,997事業所をピークに、以降、減少傾向が続いています。

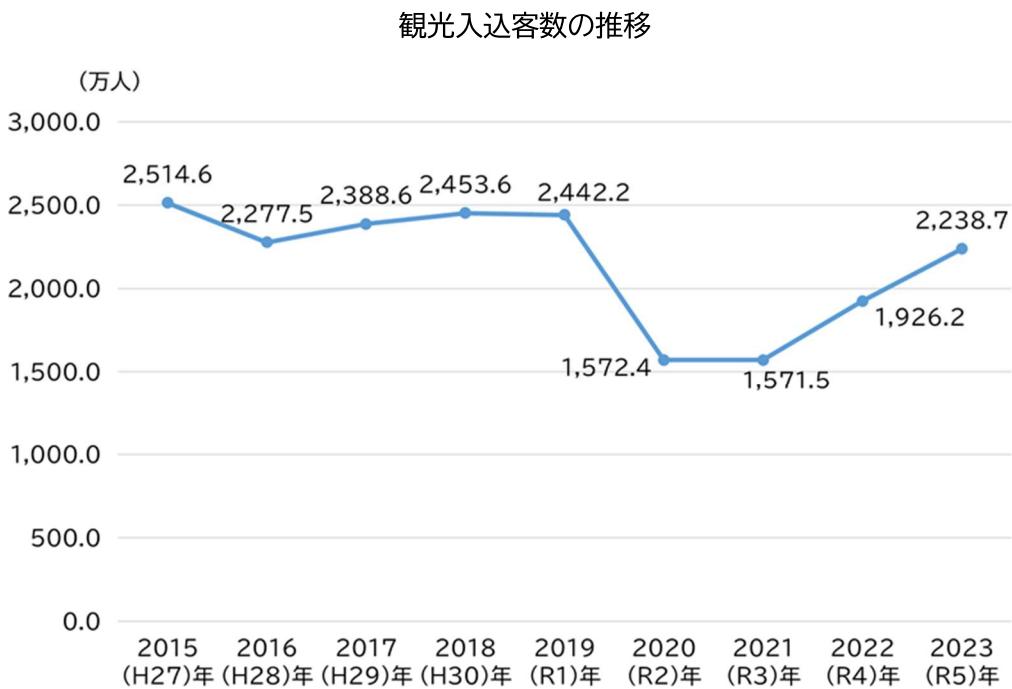
事業所数の推移



出典：総務省「経済センサス - 基礎調査」「経済センサス - 活動調査」

③ 観光

観光入込客数は、2020(令和2)年の新型コロナウイルス感染症の流行の影響で減少したが、その後回復傾向が見られます。直近2023(令和5)年は2,238.7万人まで回復していますが、コロナ前までの水準には達していません。



	単位：人									
	2015年(H27)	2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)	2020年(R2)	2021年(R3)	2022年(R4)	2023年(R5)	
大分市	4,044,670	3,916,423	3,909,649	3,659,141	4,227,291	2,695,681	3,260,473	3,530,978	4,049,298	
別府市	8,797,440	7,944,021	8,806,878	9,043,095	8,335,773	4,427,103	3,722,365	5,379,303	6,800,812	
佐伯市	1,409,959	1,253,297	1,176,655	1,109,194	1,296,404	1,265,924	1,253,525	1,347,543	1,426,191	
臼杵市	446,563	449,171	439,064	446,563	411,950	144,047	166,751	295,660	345,423	
津久見市	300,000	300,000	315,000	400,000	335,600	149,400	155,300	242,000	324,000	
竹田市	3,320,673	2,701,613	2,814,887	2,835,496	2,923,679	2,222,984	2,251,437	2,688,306	2,830,867	
豊後大野市	1,562,488	1,461,686	1,433,316	1,478,392	1,309,280	1,274,832	1,241,804	1,277,576	1,292,064	
由布市	4,110,412	3,632,543	3,860,197	4,421,672	4,414,892	2,953,294	2,762,737	3,315,656	4,042,428	
日出町	1,153,567	1,115,873	1,130,152	1,142,204	1,167,250	591,211	901,000	1,185,459	1,275,617	
計	25,145,772	22,774,627	23,885,798	24,535,757	24,422,119	15,724,476	15,715,392	19,262,481	22,386,700	

出典：各市町集計